

V 野菜

1 果菜類

1) きゅうり

(kg/10a)

作型	目標収量 (kg/10a)	成分	元肥	追肥			計	備考
				1	2	3		
促成	16,000	N	30	20			50	追肥は収穫始めから約10日おきに(N、K ₂ O2kg/10aを目安)液肥は300~500倍希釈。
		P ₂ O ₅	35	0			35	
		K ₂ O	25	20			45	
半促成	12,000	N	20	20			40	〃
		P ₂ O ₅	25	0			25	
		K ₂ O	15	20			35	
ハウス抑制	4,000	N	15	10			25	〃
		P ₂ O ₅	20	0			20	
		K ₂ O	15	10			25	
夏秋 (露地)	5,000 ~8,000	N	20	6	8	6	40	追肥は収穫始め、最盛期、その後2週間目を目安。
		P ₂ O ₅	30	0	0	0	30	
		K ₂ O	20	5	6	5	36	

注) 収穫を始めると窒素・カリ吸収量が大幅に増加するので、栄養状態を好適に保つ施肥管理が必要である。

2) メロン

(kg/10a)

種類	作型	目標収量 (kg/10a)	成分	元肥	追肥		計	備考
					1	2		
ハウスメロン	半促成	3,000	N	10	5		15	追肥は着果期以降とし、追肥量、回数は草勢をみて調節する。
			P ₂ O ₅	15	0		15	
			K ₂ O	10	5		15	
	抑制	3,000	N	10	5		15	
ノーネット型	半促成	4,000	N	10	5	5	20	追肥は1番果着果後、1番果収穫開始後とし、草勢をみて調節する。 火山灰土壌地域は元肥N量を減じP ₂ O ₅ 量を増やす。
			P ₂ O ₅	15	0	0	15	
			K ₂ O	10	5	5	20	
	トンネル早熟	3,500	N	10	5	5	20	
			P ₂ O ₅	15	0	0	15	
			K ₂ O	10	5	5	20	

注1) 着果後、果実の肥大期に窒素が過剰にならないように注意する。

2) メロンは苦土欠を起こしやすいので苦土を十分施用しておくほか、カリ、石灰の過剰施用に注意する。

3) すいか

(kg/10a)

作型	目標収量 (kg/10a)	成分	元肥	追肥			計	備考
				1	2	3		
半促成	8,000	N	20	5			25	追肥は1番果収穫後の切り戻し時
		P ₂ O ₅	20	0			20	
		K ₂ O	20	5			25	
トンネル早熟	6,000	N	7	3	2	3	15	追肥は1番果着果後、1番果収穫後、梅雨あけ後とする。
		P ₂ O ₅	15	0	0	0	15	
		K ₂ O	10	3	4	3	20	
普通 (露地)	5,000	N	10	4	3	3	20	
		P ₂ O ₅	15	0	0	0	15	
		K ₂ O	10	4	3	3	20	

注) 定植後着果までは側枝の増加に支障のない程度に窒素の肥効を抑え、追肥はつるほけの心配のない着果後に行う。

4) トマト

(kg/10a)

作型	目標収量 (kg/10a)	成分	元肥	追肥	計	備考
促成	12,000	N P ₂ O ₅ K ₂ O	15 25 15	15 0 15	30 25 30	追肥は第1花房着果後、15～20日間隔でN1～2kg/10aを分施する。 液肥で追肥を行う場合は、300～500倍希釈。
半促成	10,000	N P ₂ O ₅ K ₂ O	15 25 15	15 0 15	30 25 30	
ハウス抑制	7,000	N P ₂ O ₅ K ₂ O	15 20 15	10 0 10	25 20 25	
夏秋 〔雨除け〕 高冷地	12,000	N P ₂ O ₅ K ₂ O	15 30 15	15 0 15	30 30 30	

注1) 第1花房着果までは窒素肥効を抑え気味にコントロールする。

2) 第1花房肥大規模から窒素吸収量も急増するので、この頃から追肥を行い、肥切れを起こさないようにする。

5) ミニトマト

(kg/10a)

作型	目標収量 (kg/10a)	成分	元肥	追肥	計	備考
促成	6,000	N P ₂ O ₅ K ₂ O	15 25 15	15 0 15	30 25 30	追肥は第1花房着果後、15～20日間隔でN1～2kg/10aを分施する。 液肥で追肥を行う場合は、300～500倍希釈。
半促成	4,000	N P ₂ O ₅ K ₂ O	15 25 15	15 0 15	30 25 30	
ハウス抑制	3,000	N P ₂ O ₅ K ₂ O	15 20 15	10 0 10	25 20 25	
夏秋 〔雨除け〕 高冷地	6,000	N P ₂ O ₅ K ₂ O	15 30 15	15 0 15	30 30 30	

注1) 第1花房着果までは窒素肥効を抑え気味にコントロールする。

2) 第1花房肥大規模から窒素吸収量も急増するので、この頃から追肥を行い、肥切れを起こさないようにする。

6) なす

(kg/10a)

作型	目標収量 (kg/10a)	成分	元肥	追肥	計	備考
半促成	10,000	N P ₂ O ₅ K ₂ O	20 25 15	25 5 25	45 30 40	追肥は第2花開花後、液肥(300倍)を主体に分施する。
夏秋 (露地)	6,000	N P ₂ O ₅ K ₂ O	20 25 15	20 5 20	40 30 35	追肥は収穫始め頃から、2週間おきにN2～3kg/10aを目安。

注1) 最盛期に多量の窒素を必要とし、栄養状態が悪くと落花などが多く収量も上がらないので、肥切れしないように注意する。

2) 苦土欠乏が出やすいので、苦土を施用するとともにカリ、石灰の過剰に注意する。

7) ピーマン

(kg/10a)

作型	目標収量 (kg/10a)	成分	元肥	追肥	計	備考
夏秋 (雨除け)	8,500 ~10,000	N P ₂ O ₅ K ₂ O	20 30 15	15 0 15	35 30 25	追肥は収穫始期から行い、N3~4kgを目安に分 施する。

注1) 過湿、乾燥に比較的弱く、栽培期間が長いので、保水性・排水性に優れた土壌が適する。作付け前に、完熟した堆肥を5t/10aを目安として施用する。

2) カリの蓄積した圃場では尻腐れ果が多くなる傾向があるので、上記基準量を超える過剰施用は避け、水管理を適正に行う。

3) 被覆配合肥料を用いた局所施肥(条施肥)を行うと、肥効の向上により3割程度の減肥が可能である(P.95参照)。

8) いちご

(kg/10a)

① さがほのか

栽培様式	目標収量 (kg/10a)	成分	元肥	マルチ肥	計
高設栽培	4,500	N P ₂ O ₅ K ₂ O	13.2 11.8 13.0	7.8 6.7 7.8	21.0 18.5 20.8

注1) 液肥の追肥は収穫最盛期から窒素濃度100ppmで3~5日または200ppmを7~10日間隔で施用する。

2) 回に1回は微量要素入り液肥を施用する。

栽培様式	目標収量 (kg/10a)	成分	元肥	マルチ肥	計
土耕栽培	4,500	N P ₂ O ₅ K ₂ O	10.2 7.8 10.3	8.4 7.2 8.4	18.6 15.0 18.7

注1) 初めて栽培する場合はFTE 3kg/10aを施用する。

2) 液肥の追肥は収穫最盛期から窒素成分0.3~0.5kg/10aを週1回施用する。

② その他の品種

作型 (栽培様式)	目標収量 (kg/10a)	成分	元肥	追肥		計	備考
				1	2		
促成 (土耕)	3,500	N P ₂ O ₅ K ₂ O	12 16 10	1.5 0 1.5	6.5 0 4.5	20 16 16	追肥1はポリマルチ前、追肥2 は液肥で灌水を兼ね分施する。

注1) いちごは濃度障害を受けやすいので、一度に多量の速効性肥料を施用することは避ける。

2) 中性以上の土壌では株が矮化するなどの生育障害が発生しやすくなるので、石灰質肥料は過剰に施用しない。

9) さやいんげん

(kg/10a)

作型	目標収量 (kg/10a)	成分	元肥	追肥		計	備考
				1	2		
半促成	1,500 (つるなし)	N	15	3		18	追肥は2回に分施する。
		P ₂ O ₅	16	0		16	
		K ₂ O	15	3		18	
	2,000 (つるあり)	N	10	5	5	20	
		P ₂ O ₅	22	0	0	22	
		K ₂ O	10	5	5	20	
ハウス抑制	1,500	N	10	3		13	
		P ₂ O ₅	16	0		16	
		K ₂ O	10	3		13	
夏秋 (露地)	2,000	N	10	5	5	20	
		P ₂ O ₅	20	1	1	22	
		K ₂ O	10	5	5	20	

注1) さやいんげんは排水不良、酸性土壌で生育が劣る。

2) 開花期以後、窒素不足とならないように管理し、特に大雨後等には速効性窒素 2kg/10a 程度の追肥を行う。

10) さやえんどう

(kg/10a)

作型	目標収量 (kg/10a)	成分	元肥	追肥	計	備考
夏秋 〔雨除け〕 〔高冷地〕	1,000	N	10	7	17	追肥は灌水を兼ねて液肥で行う。 非火山灰土では P ₂ O ₅ を減じてよい。
		P ₂ O ₅	28	2	30	
		K ₂ O	10	7	17	
秋冬 (ハウス)	1,000 ~1,500	N	10	5	15	追肥は開花始、収穫始さらにその後も必要に応じて分施する。
		P ₂ O ₅	15	0	15	
		K ₂ O	10	5	15	

注) 連作すると、苗貫枯病が多発して収量が低下するので注意する。

11) スイートコーン

(kg/10a)

作型	目標収量 (kg/10a)	成分	元肥	追肥		計	備考
				1	2		
普通 (露地)	1,500	N	15	5	5	25	追肥は本葉 5~6 枚時と雄穂抽出期
		P ₂ O ₅	30	0	0	30	
		K ₂ O	15	5	5	25	

注) 半促成 (ハウス) 栽培の施肥量は上記基準の 3~4 割増しとする。

12) カボチャ

(kg/10a)

作型	目標収量 (kg/10a)	成分	元肥	追肥	計	備考
トンネル	日本カボチャ 1,500	N	15	14	29	
		P ₂ O ₅	15	5	20	
		K ₂ O	15	10	25	
	西洋カボチャ 3,500	N	15	10	25	
		P ₂ O ₅	15	0	15	
		K ₂ O	15	10	25	